

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

情報教育 第126号

— 小, 中, 高, 特別支援学校対象 —
平成24年10月発行

道徳の時間を中核とした情報モラルの指導

小学校及び中学校学習指導要領では、道徳について「児童（生徒）の発達段階や特性等を考慮し、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導に留意すること。」とされているが、昨年度までの当課の調査研究から、道徳の時間における情報モラルの指導が十分でない実態が明らかになった。

そこで本稿では、情報モラルの指導を充実させる指導の一例として、道徳の時間を中核とした情報モラルの指導について述べる。

1 情報モラルの指導内容

(1) 情報モラルの指導の二領域

情報モラルの指導内容には、「心を磨く領域」と「知恵を磨く領域」の二領域がある。「心を磨く領域」は、相手を思いやり、自分の行動に責任をもつことなどを指導する日常モラルの側面をもち、「知恵を磨く領域」は、情報社会の特性を理解し、情報と安全に向き合う方法などを指導する情報安全教育の側面をもつ。情報モラルの指導を行う際は、この二つの領域を相互に組み合わせて体系的な指導を行うことが必要である。

なお、道徳の時間における情報モラルの指導は、「心を磨く領域」の内容を中心とし

て、児童生徒の道徳的価値の自覚を深め、自分を律し情報社会で適切に行動できる判断力を培い、相手を思いやる豊かな心情や情報社会における公共心などを育てることが大切である。

(2) 情報モラル指導モデルカリキュラム

平成19年3月に文部科学省の委託事業で示された「情報モラル指導モデルカリキュラム表」(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2010/09/07/1296869.pdf)では、情報モラルの指導分野として「情報社会の倫理」、「法の理解と遵守」、「安全への知恵」、「情報セキュリティ」、「公共的なネットワーク社会の構築」の五つが示されている。

これらの五つの指導分野の関連については、「情報社会の倫理」と「法の理解と遵守」の二分野は「心を磨く領域」に含まれ、「安全への知恵」と「情報セキュリティ」の二分野は「知恵を磨く領域」に含まれる。さらに、これらの四分野で育成される、健全な心と社会のルールを理解、安全に活用する知恵を前提として、「公共的なネットワーク社会の構築」の分野へ積極的に参画する態度を育成することができるとしている（次頁図1）。

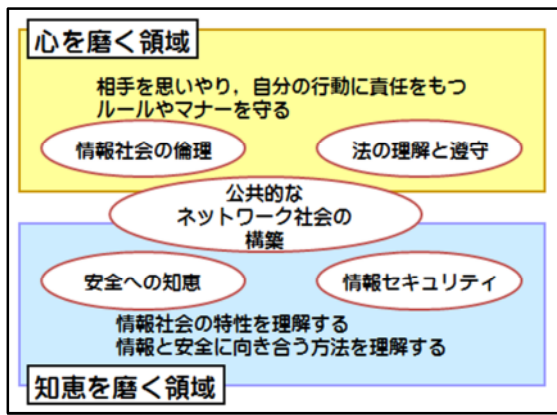


図1 情報モラルの指導分野の関連図

2 道徳と情報モラルの指導の関連

文部科学省の委託事業で作成された「情報モラル指導実践キックオフガイド」では、情報モラルの具体的な目標を体系的に整理していくと、道徳などで扱われている「日常生活におけるモラル（日常モラル）の育成」と重複する部分が多いことが分かるとしている。また、道徳で指導する「人に温かい心で接し、親切にする」「友達と仲よくし、助け合う」「他の人とのかかわり方を大切にする」「他人を大切にする」などは、情報モラルで指導する「自分の情報や他人の情報を大切にする」「相手への影響を考えて行動する」「自他の個人情報を、第三者にもらさない」などの基盤となるものと考えられるとしている。

さらに、「情報モラル指導モデルカリキュラム表」は、道徳教育で指導すべき四つの内容項目のうち「自分自身」、「他の人とのかかわり」、「集団や社会とのかかわり」の三つを意識して作成されている（図2）。

道徳教育	情報モラル
主として自分自身に関すること	責任ある情報発信，個人情報保護
主として他の人とのかかわりに関すること	相手を思いやるコミュニケーション
主として集団や社会とのかかわりに関すること	情報社会における安全指導とセキュリティ

図2 道徳教育と主な情報モラルとの関連

3 ICT活用を通じた情報モラルの指導

情報モラルの指導を各教科等で行う際は、従来の授業の中に情報モラルの視点をもったICTの活用を取り込むことが必要である。

ICTを活用した教材については、インターネット上に無料で利用できる教材や市販されている教材などが多数ある。それらの教材は、インターネットに関する諸トラブルについて疑似体験したり、クイズ形式で様々な問題点について考えたりすることにより、情報モラルに係る知識を確認するなど、情報安全教育に関するものである。特に、インターネットに関するトラブルについては、実際に児童生徒に体験させることができないため、このような教材を有効に活用して情報社会における体験活動として疑似的に体験させていくことが重要である。

当教育センターのWebサイトにおいても、情報モラルの指導事例や教材等を容易に利用できるようにリンク集 (<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/jyouhoukyou/moral/mlink/link.html>) を作成しているのでぜひ活用していただきたい。

4 道徳の時間を中核とした情報モラルの指導

道徳の時間は、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることを通して道徳的実践力を育成する時間である。そのことをしっかり踏まえ、ICTの使い方やインターネットの操作、危険回避の方法やその際の具体的な行動にその主眼を置くものではないことに留意する必要がある。

ここで道徳の時間を中核に据えた情報モラルの指導の流れを示す。

- (1) 事前指導 (各教科等)

作品製作や、インターネットを利用した調べ学習、電子掲示板等での疑似体験など、「情報社会における体験活動」を通して、実感をもって情報モラルの必要性を理解させる活動を行わせる。
- (2) 道徳の時間

「情報社会における体験活動」を通じた情報モラルの指導を基に、話し合い活動等を行う。そうすることで、「心を磨く領域」に関する課題について道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めさせ、道徳の時間の特性である補充、深化、統合を行い、情報モラルの実践力を高める。
- (3) 事後指導 (各教科等)

作品製作や調べ学習のまとめ、インターネットによる情報発信等の学習活動で、情報モラルに配慮した適正な行動を行えるようにする。

道徳の時間に情報モラルの重要性を児童生徒に実感させ、「心を磨く領域」の指導を充実させるには、事前に各教科等においてICTを活用して、疑似的に操作を体験したり、調べ学習を通して情報の収集から発信までを実際に行ったりするなどの「情報社会における体験活動」を「知恵を磨く領域」の指導内容と関連付けておくことが必要である。そのことにより、正しい判断力が身に付き、情報モラルの実践力が高まる(図3)。

さらに、事後指導においても「知恵を磨く領域」の指導を位置付け、身に付けた考え方や態度を実践力として高めることができる

ようにする。

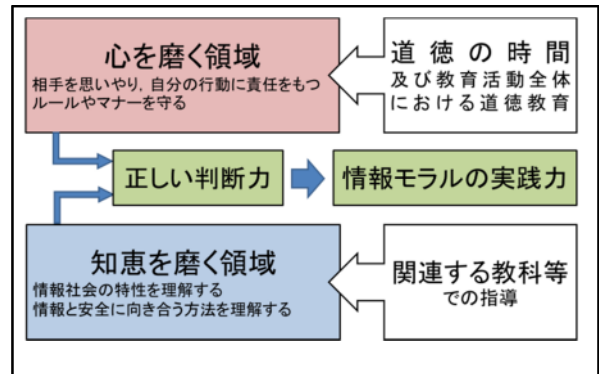


図3 情報モラルの実践力を高める指導のイメージ

このように、「心を磨く領域」も「知恵を磨く領域」も共に意識しながら日常的かつ体系的に指導するためには「道徳の時間」を中核として他の教育活動における情報モラルの指導を有機的に関連付け、総合単元的に指導することが有効である(図4)。

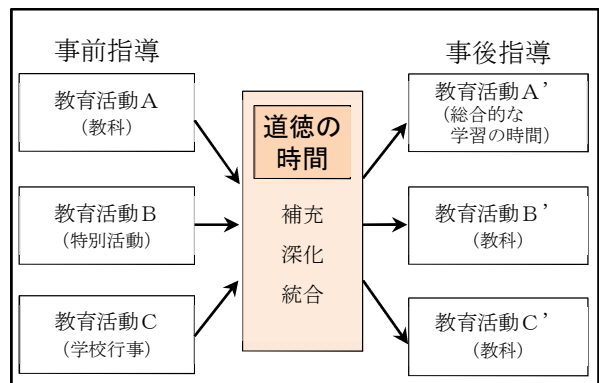


図4 道徳の時間を中核とした情報モラルの指導のイメージ例

5 中学校での実践例

南九州市立川辺中学校第2学年の取組を基に指導計画と道徳の時間の実践例を示す。

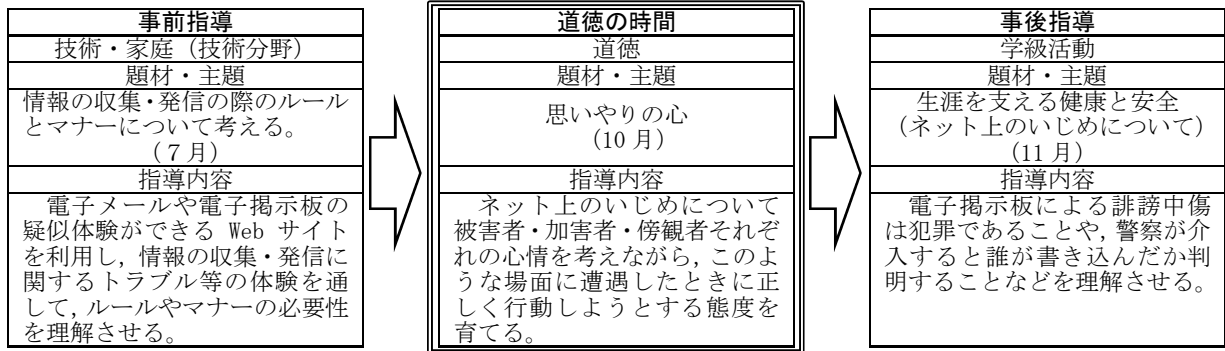
(1) 指導計画

指導計画を作成する際は、児童生徒の情報モラルに関する実態を把握し、情報モラルに関する指導内容を各教科、特別活動、総合的な学習の時間などから選び出し、教科等のねらいと情報モラルの指導内容との関連を検討する。

次に、選び出した指導内容を吟味し、目

標の達成に深く関わるものだけに精選し、児童生徒の意識の流れを想定しながら、各活動における情報モラルの指導の関連を整

理する。最後に、中核となる道徳の時間の位置付けと、事前・事後の指導内容を検討する。



(2) 道徳の時間での実践

主題名	思いやりの心（4-1）規則の尊重・公德心		
主題の目標	身近な人が、ネット上のいじめを受けていることを知ったとき、どのように行動すればよいかを考える。		
情報モラルの指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会における自他の責任や義務について考え、よりよい行動ができるようにする。 個人の人格権、肖像権などを尊重する態度を養う。 		
使用教材	春野家 ケータイ物語 第8話 「立ち上がれ! ひきょうな書き込み 深まるキズナ」 (独立行政法人メディア教育開発センター)		
過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 電子掲示板の書き込み経験を想起する。 2 ネット上のいじめについて知る。 3 学習目標を設定する。 電子掲示板を利用する上で、気を付けなければならないことは何だろうか。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 電子掲示板の便利な点、問題点について、事前学習等で経験したことを想起させる。 「ネット上のいじめ」の定義を説明する。 ネット上のいじめの認知件数を提示し、誰の身にも起こりうるものであることを理解させる。
	4 ビデオを視聴する。 5 掲示板に悪口を書かれた啓太の気持ちや他の人の気持ちを考える。 被害者の立場の心情を考える。 6 掲示板に書き込んだ人の気持ちを考える。 第三者の立場の心情を考える。 発問例 <ul style="list-style-type: none"> 啓太と同じクラスメイトだった場合、あなたは、その後どうしますか。 それぞれの立場で考え、その中で思ったこと、感じたことはないですか。 7 自分としては、どうするか最終的な意見を述べる。 8 ビデオの続きを視聴する。 9 自分だったら友人に対してどのようなことをしてあげられるかを考える。		40分 <ul style="list-style-type: none"> 誰が書いたか分からないという不安な気持ちを理解させる。 啓太の怒りや悲しみなど、行き場のない心の状態を理解させる。 自分たちの設定の立場から、なぜそのような行動を取るかを考えさせる。 自分が考えた意見を基に、グループで話し合わせる。 助けたい気持ちと、巻き込まれたくないという気持ちの葛藤があることを理解させる。 他の立場の意見に対して、なぜそのように考えるかの質問や意見を述べさせる。 自分の意見と異なった立場で考えた中で感じたこと等を述べさせる。 自分に置き換えて考え、自分の意見を発表させる。 友人がなぜそのような行動を取ったのかを考えさせる。 啓太の思いの変化に気付かせる。 自分にできることを考えさせる。
終末	10 電子掲示板を利用する上で、気を付けなければならないことを考える。 11 感想をワークシートに書く。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 電子掲示板は、公共的なコミュニケーションの場であり、他への思いやりや配慮が欠かせないことを理解させる。

道徳の時間を中核とした情報モラルの指導を行う際は、情報教育の年間指導計画が不可欠であり、事前指導と事後指導を行う教科等との関連を明確にする必要がある。各校において、情報モラルの年間指導計画とそれが位置付けられた情報教育の年間指導計画が作成され、児

童生徒の情報モラルの指導が充実することを期待したい。

—参考文献—

- 「情報モラル指導実践キックオフガイド」平成19年3月
日本教育工学振興会
- 「教育の情報化に関する手引」平成22年10月 文部科学省
- 「研究紀要第116号」平成24年3月 県総合教育センター
(情報教育研修課)